令和6年度第2回広島市立図書館協議会 会議要旨

日 時	令和6年12月26日(木) 午前10時30分～午前12時00分		
場 所	中央図書館3階 セミナー室		
公開・非公開の別	公 開	傍聴人	6名
出席者	委 員：林委員、庄委員、岡田委員、奥村委員、河村委員、辰上委員、黒川委員、矢野委員、 外村委員 事務局：中谷市民局次長、木本生涯学習課長、高田指導第一課長、松川幼保企画課保育園運 営指導担当課長、佐藤中央図書館事業課長、田渕こども図書館長		

議 事 (会議要旨)

1 開会

2 議事

(1) 委員長・副委員長の選任について

委員長 林委員

副委員長 庄委員

(2) 広島市子供の読書活動推進のための取組の推進状況について

<説明>

資料1に沿って生涯学習課長が説明

<質疑等>

(辰上委員)

2ページ目一番下の「ウ 拡充取組」の「調べ学習のための資料の充実や貸出の推進、ホームページへの学年・単元に対応した図書リストの掲載等による教職員や学校司書への情報提供の充実」について、推進状況に「前年度に増設したこども図書館ホームページの「学年単元別資料相談事例」の相談依頼フォームや、FAX相談依頼用紙を活用した相談件数が増えた」とある。

調べ学習の支援で、学校図書館で支援セットが活用されたり、学校・ボランティア等支援図書セットが活用されたり、相談件数が増えたという状況がよく分かった。いろいろ新しい取組等を行っていただけたことは、とてもよかったと思う。

(矢野委員)

1ページ目の「具体的な取組」「ア 重点施策」の「家庭」の推進状況で「各保育園で絵本の貸し出しを行う」があり、よい取組だと思うが、各園の蔵書について、何か方針や指標などがあるか伺いたい。

(幼保企画課保育園運営指導担当課長)

保育園等としては、絵本を通して、こどもたちに心豊かに育ってほしいという願いがある。機械の音ではなく、保護者や保育者の声で読み聞かせをしていきたい。これは、心と心を通わせながら保育をしていきたいという思いから行っている。

保護者の中には、早く読ませたいと思って、機械やテープをかけながら「ページをめくってごらん」というところもあるが、そうではなく、ページをめくるタイミングであったり、こどもが怖さからちょっと体を縮めたりするときに触れることなども大切であると考えている。

絵本の読み聞かせは、こんなに心豊かに育っていくんだよ、心と心を通わせるツールなんだよということを、御家庭の方にも知っていただきたいという思いから、園だよりやクラスだより、掲示等で周知をし、家庭での読み聞かせを行っていただくよう、絵本の貸出しに一生懸命取り組んでいるところである。このような思いで、絵本の読み聞かせを日常の保育の中で取り入れている。

(矢野委員)

思いがよく分かった。どうしてこれを伺ったかという、これは公立の園についての取組だと思うが、全ての公立保育園の状況は分からないし、個人的にいろいろな園に伺うこともある中で、それぞれの園の持っている蔵書は、冊数も違えば、内容というか選書というか、選んでいる本は結果的に集まったものであったり、意図的に集めたものであったり、随分と異なっていると感じることがある。

小学校以降の学校図書館と違って、その蔵書の目安や方針、冊数、基本図書が、まだ薄いところがあるのではないかと思う。取組のスタートとしてはとてもよいのではないかと思うが、これを継続する中で、全園児が20名のところと、何百名のところとでは、借りたい本の届く状況も違ってくるのではないかと感じたので、今どうなっているか分からないが、将来的にはそういうところも含めて充実できればよいというのが願いである。

(庄副委員長)

今のように、絵本の読み聞かせを早い段階から働きかけており、小学校では図書館の時間や図書の時間、読書の時間、朝読の時間と、できることはもう皆で行っているという状況かと思うが、それにもかかわらず「本を読むのが嫌い」というこどもが3割いるというのは結構衝撃である。

「嫌い」というのは、アンケートで選択肢をチェックしたということだと思うが、一体本の何が嫌いなのか、どうして嫌いになってしまったのかということについて、アンケートの回答ではなくても、推測できるような情報があれば、ぜひ伺ってみたい。

(林委員長)

それに追加して、「嫌い」ということを分析した結果があるのかどうかということも含めて教えていただきたい。

(指導第一課長)

「嫌い」の中身を詳細に分析するという事は行ってないため、あくまでもその周辺情報や、その他のアンケート項目などで推測できるところということになるが、この質問項目は回答が選択肢になっていて、「本を読むのが嫌いだから」とともに、「読書より他にやりたいことがあったから」という選択項目もあり、そちらのほうが高い数値となっている。

読書より他にやりたいことが何なのかと考えたときに、「全国学力・学習状況調査」の質問項目の中で、令和6年度から追加された項目に「放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか」という質問がある。

一番多い回答で「SNS、テレビ、テレビゲームをしている」と答えているこどもが80%で、次に多いのが、「習い事」、「スポーツ以外の習い事」。スポーツ以外の習い事なので、塾などが入るのかと思う。「スポーツの習い事」が50%、同じく50%のこどもが「読書・勉強をしている」と答えている。

これらのことを総じて考えると、やはりSNSやテレビゲームというところの影響力がとても大きいのではないかと思っている。今日、新聞で「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果が出たが、放課後に、スクリーンタイムというが、「SNS等をスマートフォンで見ている」が、

中学生は80%を超えており、2時間以上見ているとなっていた。

ここからは推測になるが、日常的に時間を潰すSNSやテレビゲームなどが今、氾濫してしまっていてというのは間違っただけかもしれないが、そういう状況の中で、本を読むのが嫌いというか、楽しくないというか、その中に楽しさを見いだせない子どもが出てきているという状況があるのかと思う。

あくまでいろいろな項目を並べてみての推測となるが、そういうところに理由があるかと考えている。

(河村委員)

家庭教育における読み聞かせ、保護者の協力というのは、本を好きな子どもたちを育てるために非常に大切なことである。公民館にも図書室があり読み聞かせ教室のような講座もたくさんある中で、一つこれは良いなと思った講座がある。安芸郡府中町の「読みメン体験講座」というもので、お父さんに焦点を当てて、お父さんが子どもに読み聞かせをするというものである。少し偏見があるかもしれないが、どちらかといえばお母さんが読み聞かせをしているという印象を受けるが、お父さんもこの中に入り子育てや読み聞かせに関わっていくことで、また違う刺激があり、読書が面白いなという気になるのではないかと思う。

(林委員長)

学校や幼稚園でこんなことをしていたと紹介できるようなユニークな取組はあるか。

例えば広島市の小学校でこういった特徴があってこれがモデルになっていると言えるようなことが広がっていくと違ってくると思う。そこに、公立の図書館がどのように貢献できるかを考えてみるのも面白いと思う。

(黒川委員)

日常的には学校と家庭というのはとても大きいと思うが、やはり社会的に目指すということしていくと、例えば公民館で、どの程度利用しているか、あるいは読み聞かせも含めてどういうことをしているか。区の図書館でもいろいろしているようだが、市民にとって学校というのは意外と遠い。ここで発表された内容は非常に大切だと思うが、市民から見た場合に、自分たちも参加してみたいという機会としては、学校は敷居が高いので公民館や図書館ということになる。

(木本生涯学習課長)

公民館について、昨年度実績を数点紹介させていただく。

例えば、二葉公民館では、「おはなしのへや」ということで、定期的に本の読み聞かせを行っており、舟入公民館では、大人を対象にした「子育て応援講座」ということで、子どもとの遊びや絵本の紹介といった子育て講座を行っている。こうしたものが今後広がっていくよう取り組んでいく。

(外村委員)

3点思ったことがある。

1つ目は、資料には本を読むとあるが、本にもいろいろな種類があるのでどういう本を読むのかが伝わらない。例えば料理本のような知識や実学系の本を読むのか、あるいは文学のように生きる意味や生き方について考えるような教養系の本を読むのかでも違ってくると思う。大まかに本というだけではなかなか見えてこないものがあるのではないか。

2つ目は、読み聞かせのような幼い子どもたちの活動も啓発の一環として非常に良いと思うが、本来は読書というものは、生涯にわたって本を読む場合、孤読の時間というのが非常に大事であ

る。先ほどスクリーンタイムがある中学生が80%を超えているという話があったが、時間が取れない中で、子どもから大人にわたる地域の方々が、どのように本そのものや読書することに対して興味を持ち続けられるか、独りの時間をどのように配分するか、読書がどれだけの値打ちを持つか、ということをも高める啓発も必要だと思う。

3つ目は、文庫本の価格が1,000円を超えるものが増えて高くなってきているため、気軽に買えなくなってきている。そこで、たくさん本を借りられるので図書館に来てくださいと導きがあってよいと思うが、逆に本が売れなくなってしまうといったジレンマもあるのではないかと。そういったことも課題として、今後考えていくべきだと思う。

(林委員長)

ただいまの3点のことに関わって、図書館でどのような取組を進めていくのか、既にやっていることやアイデアはあるか。

(田淵こども図書館長)

こども図書館では、中学生以下、特に乳幼児や就学前の子どもを対象に、おはなし会等さまざまな事業を実施している。そうした中で、児童の読書活動の推進のためには、家庭、学校、保育園や幼稚園を含めた連携が非常に重要になってくる。そのために、家庭読書アドバイザーや昔話の出前講座といった事業を実施しており、学校との連携も行っている。この家庭読書アドバイザーというのは、保護者の方に向けて、乳幼児の絵本の選書や絵本の重要性といったこととお話しいただくというものである。

資料の中の重点施策の部分だが、家庭読書アドバイザー派遣による親子読書の奨励ということも挙げているが、目標値には達していない状況である。年明けにこの事業についての説明会を、保育園や幼稚園の園長会等で行う等、力を入れていきたい。

(辰上委員)

資料2に関して、1ページ目だが、「家庭における子どもの読書活動の推進」ということで、母子健康手帳に読み聞かせの意義を記載するとか、ブックリストを配布するというようなことがあったと思うが、それだけでは実際に親御さんが絵本を買ってきて、赤ちゃんに読んであげるまでにはなかなか進まない。家庭での読み聞かせを推進するために、ブックスタート、絵本贈呈事業が考えられるが、広島県23自治体のうち19自治体で絵本贈呈事業を実施している。実施していないのは、広島市、江田島市、三次市、福山市の4自治体のみである。

ただし、広島市内でも地域によっては、民生委員の児童委員が赤ちゃん訪問の際に絵本を何冊か届けていると聞いているので、地域限定ではなく広島市全域に広がっていけば良い。

あとは、先ほど読み聞かせの意義があると言われたと思うが、赤ちゃん時代からの読書支援を大事にしてほしい。家庭読書アドバイザーをしているため、その辺りを十分にお願したい。

そうかといって、絵本をばらまきだけでは、古本屋などに売られるなどで、実際は読まれていないということがあるのではないかとと思われる。子育て中のお母さんたちが地域や行政、社会から大事にしてもらっていると実感できるような踏み込んだサポートや仕組みがあると良い。

4ページ目の調べ学習の支援について、学校ボランティア等支援図書セットが活用されており安心したが、学校司書の方から、教科書に関連する分野の図書セットは、ある時期に貸出し希望者が集中するため、2,000冊では少な過ぎるという話を伺った。小規模学校では、理科などの図書の調べ学習の資料が十分ではない。学校図書館に配架されていない所もあると思うが、そういう支援セットの活用を促す等、図書館などで支援していただきたい。

それから、活用されていないセットの見直しなども行っておられると思うが、学校司書、司書教諭や保育園・幼稚園や読書ボランティア等に活用法などを周知していただきたい。

5 ページの「(6) あらゆる子どものための読書環境の充実」というところで、「良質な図書の収集・提供」で「適切な除籍」とあるが、どのような判断基準で何点除籍しているのか、この書き方では理解が難しい。提案だが、児童書の購入冊数をもっと増やしてはどうか。図書館の児童書の貸出し数は1年間に約144万冊で、これは全貸出し数の3分の1に当たる。たくさん読まれているにもかかわらず、新刊の児童書が区の図書館に配架されてないことが最近増えているように感じる。予約システムで、どの区の図書館においても、ネットで検索して近くの図書館などに取り寄せができるということで冊数が減っていると説明を受けた気がするが、こどもたちは書架に並んでいないと絵本などを手に取って見ることができない。特に、こども図書館がお薦めとしてリストに掲載している本などの複本が少ないため、リストを見て関心を持った人や必要とする人の手にそれらの本を届けるために、各区の図書館の書架にも置くよう検討していただきたい。

6 ページ目の「(7) 司書の知識・技能の向上と適切な配置」のところで、図書館の全職員に対して8割以上の司書を配置しているとあるが、フルタイムの正職員の方が何割でどういう構成になっているのか分かりにくい。この書き方では、適切な配置か判断が付きにくい。司書の適切な配置、研修の充実とともに、適切な対応をしてもらいたい。

7 ページ目の「(9) 民間団体等に対する情報提供」のところだが、読み聞かせグループに図書館利用案内や本の紹介を実施とあるが、具体的には何を行われたのか。

(こども図書館長)

読み聞かせグループへの利用案内や本の紹介について、具体的なところは、今、お答えすることができない。また、お話をさせていただければと思う。

(辰上委員)

本日はお答えが難しいということで、また、よろしければ教えていただきたい。

8 ページの「2 公民館等における子どもの読書活動の推進」のところで、(2)、公民館に赤ちゃん絵本コーナーを設置されたと書かれており、オープンスペースなどの利用者がいつでも絵本を手にとれる環境づくりができて良い。

それとともに、9 ページ目の「(4) 児童館におけるおはなし会の充実」のところで、おはなし会、これは放課後児童クラブ等を利用しているこどもに対するおはなし会の実施だと思う。小学生が利用していない平日の午前中に、児童館でオープンスペースと子育て支援の活動をされている、あとは地域の方に、そういう空き時間に活用されているというのは御存じか。活用されているので、それに関して、児童館の蔵書の中に、「平成22年度安心こども基金事業」という名目で、寄贈された幼児向けの絵本が20冊程度あるが、どういういきさつで配布をされたか。

(中央図書館事業課長)

(手元の資料では) 分からない。

(辰上委員)

これを選書した方に聞いたところ、よく覚えていないと言われた。単純に民間団体又は個人が寄附されたのかもしれないが、実際に、14年前にそういう本が配本された。中区の一部地域だけかもしれないが、オープンスペースが開催されているということで、子供の読書活動推進や赤ちゃん支援などで寄贈されたと思う。それを、オープンスペースに来られた親御さんで読まれた、活用されてきたという実績がある。私も児童館のオープンスペースで読み聞かせを行っているので、そういうものを活用して呼びかけ等を行っていた。

随分、話が広がり過ぎてしまっているが、児童館の図書室にも乳幼児向けの本があれば、オープンスペースに参加した親子だけでなく、児童館の1年生にも本を手にとる手立てになると思う。

今まであまり注目されてなかったと思うが、改めて、こどもたちが本に触れる場として、図書館、一般図書館、学校図書館と同じような、児童館の図書室の充実ということも考えられる。

先ほど、こどもが本から離れているのは、SNS、ユーチューブ、テレビなどのコンテンツがあるためではないかという話があったが、やはり親の中には、こども一人で留守番をさせていると、結局そういうメディアを何時間も続けて見るようになるので、児童館に行ってほしいと考えている親が多いと思う。特に、1年生や2年生は、児童館の図書室も本に触れる大事な場所だと思うので、児童館の図書室にも目を向けていただきたい。

それから、11ページの「(4) 学校図書館司書教諭等教職員の知識・技能の向上及び学校図書館に関する情報の提供」、「(5) 学校図書館運営体制の充実」、「(6) 学校図書館等の施設・設備の整備・充実」などのところだが、司書教諭について、担任を持つなど勤務が多いと聞く。そのため、図書館運営に時間を割くのが難しく、学校司書の存在が重要になる。司書教諭は、学校司書とどのような連携を取っているのか。

(指導第一課長)

学校司書の業務内容が決められているため、企画などについて中心となって動くのが司書教諭である。あとは、司書教諭以外の教員も含めて、学校司書と連携を図って業務を進めている。言われたいのは、学校司書の数のことだと思うが、そういうことを含めて整理をしつつ、今、全校に蔵書管理のためのパソコンを入れることなども含めて取り組んでいるので、検討していきたい。

(辰上委員)

まさしく、学校司書の配置についてである。

学校司書の働き方について、積極的に授業のサポートができていられる方もいれば、たくさんの学校を受け持っている場合は、雑務に追われてそこまで手が回らないという話も聞く。2中学校区に1人の配置では、6校勤務や8校勤務となって、1校当たりの勤務日数が少な過ぎて、こどもたちの十分な読書支援ができないのではないかと心配である。ボランティアの協働の打合せをする時間も取れず、厳しい状況だと聞いている。1人1校を目指して早急に改善していただきたい。

学校司書の配置については、神戸市、横浜市など大都市で1校1人配置となるなど、政令指定都市では1校1人配置が標準になってきている。広島市の配置の遅れが目立ち、今後、悪い例として全国で取り上げられるのではないかと心配である。学校司書が増えることで、こどもたちが様々な情報を得やすくなり、小学生、中学生の読書支援に一番効果があると考えられる。是非、前向きに検討していただきたい。

それから、12ページの(7)の「ボランティアとの協働等による幼稚園・保育園・認定こども園における読み聞かせや本の貸出の推進」というところで、保育園18園、認定こども園1園とあるが、保育園は随分数が多いはずだが、18園となっているのは少ない。園が必要としていない、先生たちが行っているから足りているということか。地域ボランティアと読み聞かせボランティアが足りてないためか。

(幼保企画課保育園運営指導担当課長)

これは公立の保育園等の園数である。地域のボランティアとつながりを持っている園数であるが、今ここに上げている数と把握している。

園数は18園だが、地域ボランティアとの読み聞かせは、昨年度は100回を超える読み聞かせをしている。

(3) その他

<説明>

資料 3 に沿って中央図書館事業課長が説明

3 閉会

(林委員長)

これをもって、本日の会議を閉会とする。